

## 地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。  
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。  
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 城久会
代 表 者 名	理事長 林田 恒正
事 業 所 名	グループホームしおんの里
評 価 確 定 日	2021/8/27

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700161		
法人名	社会福祉法人 城久会		
事業所名	グループホーム しおんの里 1F		
所在地	福井県坂井市丸岡町安田新4-3-1		
自己評価作成日	令和3年 7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和3年 7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である利用者が尊厳ある暮らしを営む事ができるよう、しおんの里の運営指針を掲げ、全職員が一丸となってホームの運営にあたっている。  
 <しおんの里運営指針>  
 ・家庭的な雰囲気と明るく楽しい笑顔の絶えないホームを目指します。  
 ・利用者様の個性をプライバシー、そして意思を尊重します。  
 ・住み慣れた地域で自分らしく生活するために地域交流を大切にします。  
 ・全職員が一丸となり「利用者様本意」のサービスを提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の豊かな季節を感じることができる広々とした環境で、同法人の「ケアハウス花しょうぶ」の隣に事業所がある。2階建での1フロア1ユニットになっている。日課の活動にはプリントや塗り絵等の他にDVDでのユニークな体操を取り入れ、裁縫・ゲーム等、利用者に合わせて多彩に開催している。体操の音楽が流れるとリズムに乗り楽しそうにしている様子を確認した。習字・料理・カラオケ・工作クラブを毎月組み込んでおり、利用者の楽しみとなっている。運営推進会議はコロナ禍で開催していないが、委員に送付する資料に日常動作の状況や日課の活動状況・事故報告・ヒヤリハット報告等を詳細に報告している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や運営指針を全職員が共有している。ミーティングルームに掲示してある。	理念を玄関やホールに掲示している。管理者は基本理念に基づいた日常生活を送ることが出来るようにと考え、職員はその人らしい生活とできることは最大限にと考えて支援しているが、職員間での話し合いは行っていない。	理念は常に立ち戻る根本的な考え方であるため、理念の具体化や意識づけのため、職員間で話し合う機会を設けることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域との繋がりがもてない。	コロナ禍で地域との交流は難しい現状である。コロナ禍以前は、地区の保育園児やボランティアとの交流を行っていた。今後は様子を見ながら交流を開催するよう努めてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、地域との繋がりがもてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、集合での運営推進会議は実施しておらず、資料の郵送を行う。	運営推進会議は開催していないが、日常動作や問題行動・活動状況・事故報告・ヒヤリハット等詳細に情報を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実施しておらず、資料の郵送にて広域連合の職員に事業所の実情を報告している。	管理者やケアマネジャーが担当し、広域連合とは制度的なことを丸岡地域包括支援センターと生活全般を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況により、日常的に起こり得る状況、予想される状況について、事前予防的に拘束をしない介護の工夫を検討している。 3か月に1回、身体拘束廃止検討委員会を実施している。	3か月ごとに身体拘束廃止委員会を全職員対象に開催し、書類も整理している。スピーチロックや拘束適正化についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修によって、高齢者虐待についての理解を深めてもらい、虐待防止に努めている。 月1回のミーティングの時に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な説明を行い、グループホームしおんの里について理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会を実施できていないが、面会時に利用者の状況を説明し、家族の思いを聞いている。 家族の意見は、職員間で共有している。	現在は開催していないが、家族会を毎年1回開催し、会長を中心に意見交換した後、夕涼会のゲーム等で交流し、夕食を利用者と共に会食をしている。広報誌は発行していないが、今後発行検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中や月1回のミーティングを通じて、職員の意見や要望・提案を聞くよう努めている。	毎月行っているフロア会議等で意見要望を聞いている。また普段より職員と管理者は話しやすい関係にありその都度提案を聞き入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等を通じて職員の意見等により、より良い就業環境を目指していききたい。 ユニット外での休憩所の設置。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加促進。 資格取得の費用負担。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間での交流は無いが、外部研修にて同業種との交流を活かし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設で安心した生活が送れるよう、声掛け見守りしながら関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を聞き、本人の思いを傾聴しながら支援を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に合わせた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを理解してもらい、自分らしい生活を介護職員と共に行えるよう、声掛け見守りをして安心して穏やかに暮らして頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、ご本人の近況をお伝えしながら、面会や外出等のご協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にご家族から利用者の馴染みの場所や友人などを聞き、職員間で共有している。	馴染みの関係を把握しているが、コロナ禍で面会ができていない状況である。行きつけの美容室・墓参りには家族が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話題を提供し、利用者同士の共同作業(料理クラブ)趣味活動等を通じて自然と触れ合いが出来るよう支援している。 月2回1F2F合同喫茶、月1回ミュージックア、2ヶ月に1回ハーモカ※コロナ禍により外部慰問中止		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の状況に応じて支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情の中から、本人の思いを把握するように努めている。 家族や本人からの意向や希望を聞いている。	日常的に利用者に寄り添い、何をしたいかを問いかけている。欲しいものについては家族に相談し対応している。表現ができない利用者にも寄り添い傾聴し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や今まで利用されていた介護事業所等の情報を得て、なるべく馴染みの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎回のバイタルチェックや心身の状況を朝の申し送りにて把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の評価を行い、担当者会議には家族、担当職員、ケアマネが参加し意向や状況に合った介護計画を作成している。 課題が生じた場合はその都度見直ししている。	日々の記録は計画に沿って支援しているか確認し、できている項目の番号を記入し記録している。モニタリングも1か月ごとに行い、3～6か月に1回見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録で毎日、利用者の状況を把握し、月1回のミーティングにてその記録を全職員が把握し、情報の共有化でケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、利用者ご家族の希望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外出の制限を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している。 緊急時は職員が同行し受診結果を家族に報告している。	かかりつけ医を継続し、家族との受診同行の際には担当職員が問診票に記入し情報を提供している。緊急時に対応してもらえる病院や、訪問歯科診療を受ける支援体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で心身把握、バイタルの確認で、早期の病院受診を家族にお願いしたり、施設でも緊急時の病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行っている。 退院時、病院から連絡が入った時には、カンファレンスにより少しでもホームでの生活がスムーズにできるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。 重度化した場合、医療機関と連携して家族と早い段階から話し合い、入院や他施設等に移行する事を説明し同意を得ている。	看取りに関して入所時に説明している。医療行為が必要・食事や水分が摂れなくなるなど重度化した場合、協力医と相談し、他施設に前もって情報提供をする対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会への受講を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。	今年度は坂井市一斉避難訓練で安否確認を行ったが、避難訓練は行っていない。昨年地震の際に職員が恐怖を感じ避難訓練の必要性を感じている。	コロナ禍でも災害はいつ起きるかわからないため、避難訓練の開催は必須である。日頃の避難誘導や地域の協力体制も含め実施を希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、日常の言葉使いは馴れ馴れしくならないように、不適切な言動が見られた時は職員間で注意し合う。	トイレの誘導や声掛けを大きい声でしないように努めている。居室の内側からの施錠も可能で、利用者のプライバシーの確保ができています。外部研修にも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分でできる事は見守りにて支援している。利用者と話しをし、できる限り自己決定できるよう働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者のペースを重視しているが、食事と入浴の時間は決まっている。利用者の希望に関しては、できる限り希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの声掛け見守りを支援している。月2回の移動美容室、家族との美容室外出で定期的に整髪し、身だしなみができるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理の準備や後片付けなどできる事は手伝ってもらっている。本人の希望する外食を支援している。	ヨシケイやヤスブンから材料が届き、朝夕は職員、昼食は調理師が作り利用者も手伝い職員も一緒に食している。毎月の調理クラブのおやつ作りやテイクアウト、誕生日のケーキもあり、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量チェック、水分量チェック等行っている。また、疾病を考慮しドクターとの指導相談により、その利用者に応じた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。声掛け、見守り支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンを把握し声掛けしている。状況に応じて紙パンツと布パンツを使い分けしている。 パット類を工夫して自立に向けて支援している。	尿意がある人が多く、排泄パターンを把握しパット類を工夫し、声掛けをして自由にトイレに行き排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は、牛乳や服薬にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回。 入浴を拒否された場合は、時間を変えたり職員を変更したり、無理に無いよう行っている。	入浴準備、入浴、洗濯物干しを利用者自身が行う流れを大事にし、職員と会話しながら楽しむ入浴支援を行っている。機械浴室も設置し、利用者が個浴できなくなっても対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活習慣、意思に沿う支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後、薬の用法などを職員に伝達し、薬情報をカルテに添付し、全職員が確認、理解する事によって、利用者の変化について認識を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の生活歴や、得意な事などの情報を得て、その人のできる事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出の制限を行っている。	コロナ禍で外出が難しい。事業所内でユニークな体操や廊下歩行を日課的に取り入れ、筋力保持に努めている。本人の希望で外出する場合は家族と出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いは、お預かりしているが、一部の利用者については、お金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族の思いを含めて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を味わう事のできる作品や飾り物を掲示している。 毎日、掃除や換気、温度調整も行い、快適に過ごせるよう配慮している。	ガラス戸が大きく、日差しが多く入り明るい。 屋外用の椅子があり、デッキにて日向ぼっこもできる。共用空間には手作りの作品を数か所に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者には、食事以外は自由に好きな場所で過ごして頂いており、ソファを設置して独りになれる居場所の確保を工夫している。 自然と気の合う利用者同士が過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使用されていた物を持ち込まれている。 馴染みの物で安心して過ごせるよう配慮している。	ベット・クローゼット・洗面所・おしゃれな整理ダンスを設置し、利用者がテレビ・衣装箱・時計こよみを持ち込んでいる。壁画ボードには手作りのものや家族写真を貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室空間は、安全第一に設計させられている。 排泄の援助としてトイレの場所が分かるように視線の届く位置に表示を付けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700161		
法人名	社会福祉法人 城久会		
事業所名	グループホーム しおんの里 2F		
所在地	福井県坂井市丸岡町安田新4-3-1		
自己評価作成日	令和3年 7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和3年 7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>基本理念である利用者が尊厳ある暮らしを営む事ができるよう、しおんの里の運営指針を掲げ、全職員が一丸となってホームの運営にあたっている。</p> <p>《しおんの里運営指針》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気と明るく楽しい笑顔の絶えないホームを目指します。</li> <li>・利用者様の個性をプライバシー、そして意思を尊重します。</li> <li>・住み慣れた地域で自分らしく生活するために地域交流を大切にします。</li> <li>・全職員が一丸となり「利用者様本意」のサービスを提供します。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fユニットと同じ
-----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や運営指針を全職員が共有している。 ミーティングルームに掲示してある。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、地域との繋がりがもてない。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中、地域との繋がりがもてない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、集合での運営推進会議は実施しておらず、資料の郵送を行う。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を実施しておらず、資料の郵送にて広域連合の職員に事業所の実情を報告している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況により、日常的に起こり得る状況、予想される状況について、事前予防的に拘束をしない介護の工夫を検討している。 3か月に1回、身体拘束廃止検討委員会を実施している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修によって、高齢者虐待についての理解を深めてもらい、虐待防止に努めている。 月1回のミーティングの時に勉強会を行っている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な説明を行い、グループホームしおんの里について理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会を実施できていないが、面会時に利用者の状況を説明し、家族の思いを聞いている。 家族の意見は、職員間で共有している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中や月1回のミーティングを通じて、職員の意見や要望・提案を聞くよう努めている。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等を通じて職員の意見等により、より良い就業環境を目指していききたい。 ユニット外での休憩所の設置。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加促進。 資格取得の費用負担。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間での交流は無いが、外部研修にて同業者との交流を活かし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設で安心した生活が送れるよう、声掛け見守りしながら関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を聞き、本人の思いを傾聴しながら支援を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に合わせた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを理解してもらい、自分らしい生活を介護職員と共に行えるよう、声掛け見守りをして安心して穏やかに暮らして頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合い、ご本人の近況をお伝えしながら、面会や外出等のご協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にご家族から利用者の馴染みの場所や友人などを聞き、職員間で共有している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話題を提供し、利用者同士の共同作業(料理クラブ)趣味活動等を通じて自然と触れ合いが出来るよう支援している。 月2回1F2F合同喫茶、月1回ミュージックケア、2ヶ月に1回ハーモカ※コロナ禍により外部慰問中止		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その時の状況に応じて支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情の中から、本人の思いを把握するように努めている。 家族や本人からの意向や希望を聞いている。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や今まで利用されていた介護事業所等の情報を得て、なるべく馴染みの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎回のバイタルチェックや心身の状況を朝の申し送りにて把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の評価を行い、担当者会議には家族、担当職員、ケアマネが参加し意向や状況に合った介護計画を作成している。 課題が生じた場合はその都度見直ししている。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録で毎日、利用者の状況を把握し、月1回のミーティングにてその記録を全職員が把握し、情報の共有化でケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、利用者ご家族の希望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外出の制限を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している。 緊急時は職員が同行し受診結果を家族に報告している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で心身把握、バイタルの確認で、早期の病院受診を家族にお願いしたり、施設でも緊急時の病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行っている。 退院時、病院から連絡が入った時には、カンファレンスにより少しでもホームでの生活がスムーズにできるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。 重度化した場合、医療機関と連携して家族と早い段階から話し合い、入院や他施設等に移行する事を説明し同意を得ている。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会への受講を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、日常の言葉使いは馴れ馴れしくならないように、不適切な言動が見られた時は職員間で注意し合う。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分でできる事は見守りにて支援している。利用者とは話しをし、できる限り自己決定できるよう働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者のペースを重視しているが、食事と入浴の時間は決まっている。利用者の希望に関しては、できる限り希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの声掛け見守りを支援している。月2回の移動美容室、家族との美容室外出で定期的に整髪し、身だしなみができるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理の準備や後片付けなどできる事は手伝ってもらっている。本人の希望する外食を支援している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量チェック、水分量チェック等行っている。また、疾病を考慮しドクターとの指導相談により、その利用者に応じた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。声掛け、見守り支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンを把握し声掛けしている。状況に応じて紙パンツと布パンツを使い分けしている。 パット類を工夫して自立に向けて支援している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は、牛乳や服薬にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回。 入浴を拒否された場合は、時間を変えたり職員を変更したり、無理に無いよう行っている。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活習慣、意思に沿う支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後、薬の用法などを職員に伝達し、薬情報をカルテに添付し、全職員が確認、理解する事によって、利用者の変化について認識を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の生活歴や、得意な事などの情報を得て、その人のできる事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により、外出の制限を行っている。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いは、お預かりしているが、一部の利用者については、お金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族の思いを含めて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を味わう事のできる作品や飾り物を掲示している。 毎日、掃除や換気、温度調整も行い、快適に過ごせるよう配慮している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者には、食事以外は自由に好きな場所で過ごして頂いており、ソファを設置して独りになれる居場所の確保を工夫している。 自然と気の合う利用者同士が過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使用されていた物を持ち込まれている。 馴染みの物で安心して過ごせるよう配慮している。	1Fユニットと同じ	1Fユニットと同じ
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室空間は、安全第一に設計させている。 排泄の援助としてトイレの場所が分かるように視線の届く位置に表示を付けている。		